

報告事項 2

平成30年度愛知県教員研修計画について

このことについて、別紙資料に基づき報告します。

平成30年3月28日

教 職 員 課

平成30年度

愛知県教員研修計画

愛知県教育委員会



I 愛知県教員研修改革の方針

1 国の動向及び教員の資質向上に関する指標策定までの流れ

【背景】

- 新たな知識や技術の活用など社会環境の急速な変化
- 学校を取り巻く環境の変化（大量採用・大量退職，学校教育課題の多様化・複雑化）

「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（答申）」中央教育審議会（平成27年12月21日）

■学び続ける教員を支えるキャリアシステムの構築のための体制整備

- 国が大綱的に教員育成指標の策定指針を提示
- 教員育成指標，研修計画の全国的な整備
- 教員育成協議会の設置

■養成・採用・研修を通じた方策

～「教員は学校で育つ」との考えの下，教員の学びを支援～

- 継続的な研修の推進
 - ・校内研修推進のための支援等の充実
 - ・メンター方式の研修（チーム研修）の推進
 - ・OJTによる学校の活性化
- 初任研改革
 - ・校内研修の重視・校外研修の精選
- 10年研改革
 - ・実施時期の弾力化
 - ・ミドルリーダー育成
- 管理職研修改革
 - ・マネジメント力の強化
 - ・養成・研修システムの構築

教育公務員特例法の一部改正（平成29年4月1日）

- 指標の策定に関する指針を提示【新設】
- 指標，教員研修計画の策定【新設】
- 協議会の設置【新設】
- 10年経験者研修の見直し（中堅教諭等資質向上研修）
 - 【旧】
 - ・在職期間が10年に達した後相当の期間内
 - ・教諭等としての資質の向上
 - 【新】
 - ・相当の経験
 - ・中核的な役割を果たすことが期待される中堅教諭等としての職務を遂行する上で必要とされる資質の向上

愛知県教員の資質向上に関する指標策定等協議会

- 第1回協議会（平成29年 5月26日）
- 第2回協議会（平成29年 7月 5日）
- 第3回協議会（平成29年 9月20日）

『教員育成指標』＜文部科学大臣指針より要約＞

- ・教員等が担う役割が高度に専門的であることを改めて示す
- ・研修等を通じて教員等の資質の向上を図る際の目安
- ・教員等一人一人のキャリアパスは多様であること
- ・自らの職責，経験及び適性に応じて更に高度な段階を目指す手掛かりとなるもの
- ・効果的・継続的な学びに結び付ける意欲を喚起することを可能とする体系的なもの

愛知県教員育成指標 公表
（平成29年11月10日）

2 指標を踏まえた研修体系・研修計画の再構築

(1) 課題と再構築の方針

【課題】

- 教員育成指標の策定に伴い、教員育成指標で求められる資質・能力の向上を図るための研修となるように見直しを図る。
- 県総合教育センターが行っている研修とは別に県教育委員会各課室等がそれぞれ必要な研修を行っており、それら全てを整理する。
- 現場のニーズに合った研修とするとともに、教員の多忙化解消に資する効果的・効率的な研修体系を整える。

【再構築の方針】

①「愛知県教員の資質向上に関する指標（愛知県教員育成指標）」を踏まえた研修計画の見直し

- 県全体の研修について、指標を基に研修体系を再構築する。
- 「愛知県教員研修計画策定会議（仮称）」を設置する。
＜主な検討事項＞
 - ・県総合教育センターと県教育委員会各課室等が実施している研修を研修体系に位置付け、役割分担を調整しながら、総量を減らす方向で、見直しを図る。
 - ・ねらいや内容が重複または類似している研修については、統合・廃止を進める。
 - ・指標や現状を踏まえ、必要に応じて新たな内容の研修を効率的に実施する。

②法律の改正に基づく中堅教諭等資質向上研修の新たな体系づくり

- 現場のニーズに応じて研修の実施時期の弾力化を図る。
- ミドルリーダー育成のため、マネジメント力の向上を図るプログラムへと研修内容の見直しを図る。

③研修を円滑に実施するための支援

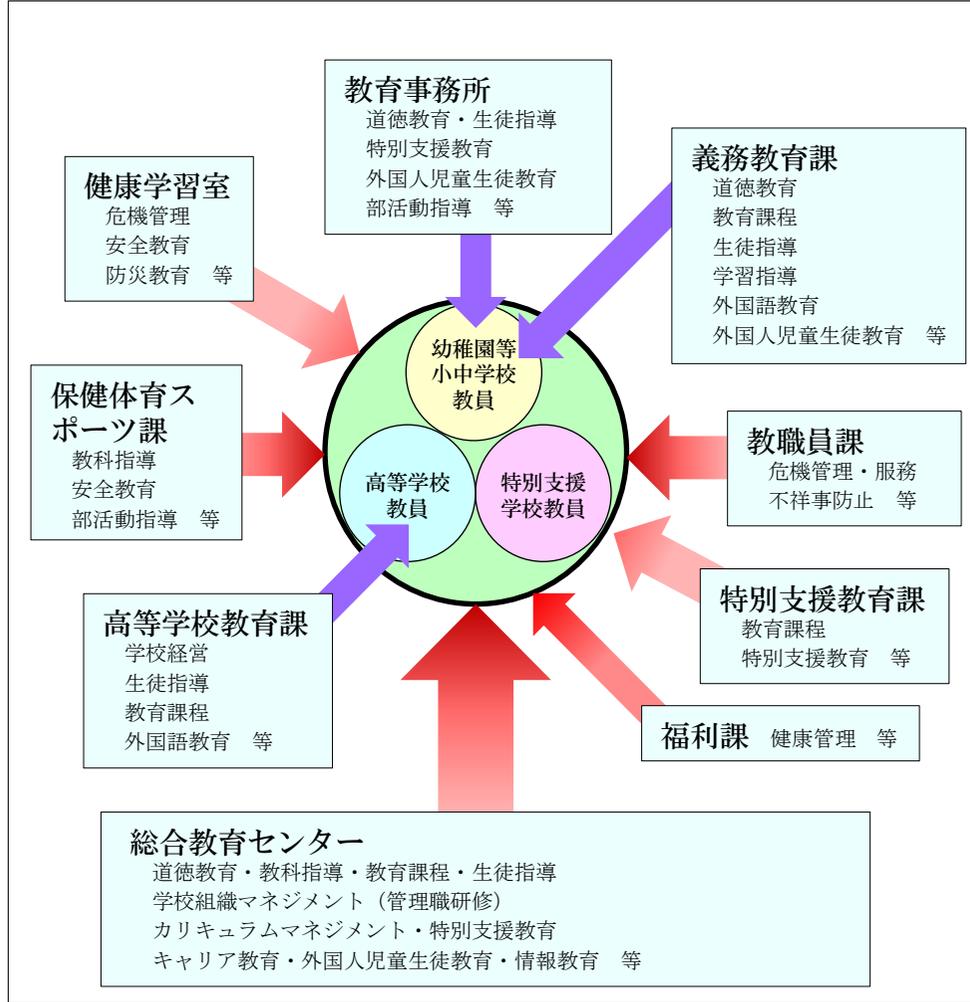
- 各教員に必要な研修や受講履歴を一元的に管理する「研修受講管理システム」の導入を進める。
- 管理職や教員個人が受講履歴を確認し、キャリアステージに応じた研修を主体的に受講できるようにする。

④実施形態の工夫とOJTの積極的活用

- 集合研修については、ねらいや内容に応じて、伝達講習形式への変更や地区別での開催を検討する。
- 「教員は学校で育つ」という考えの下、集合研修の内容を精査し、OJTの効果的運用と充実を図る。

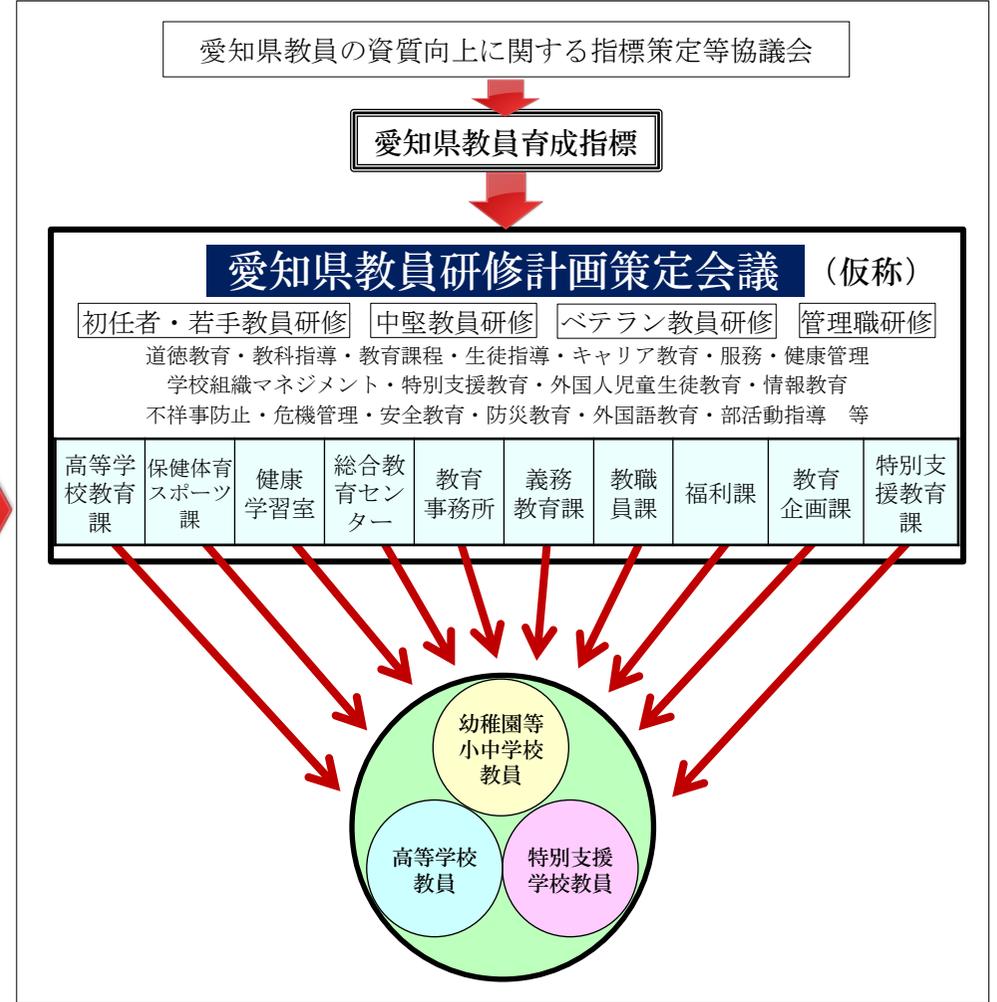
(2) 指標を踏まえた研修体制の改革

■現行の研修体制



県総合教育センター・県教育委員会各課室等が個別に研修を企画・実施。ただし、法定研修の「初任者研修」と「10年経験者研修」は、高等学校教育課・義務教育課・特別支援教育課等の関係各課と県総合教育センターが協議して内容を定めている。

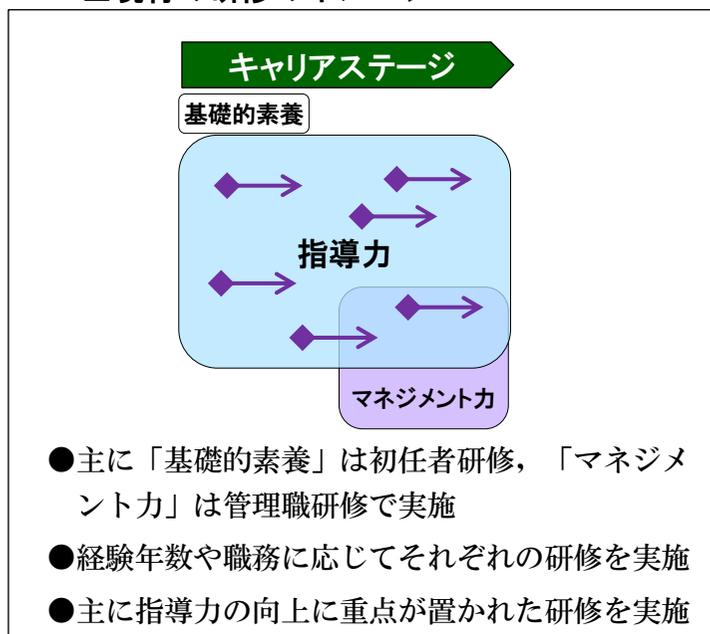
■新たな研修体制



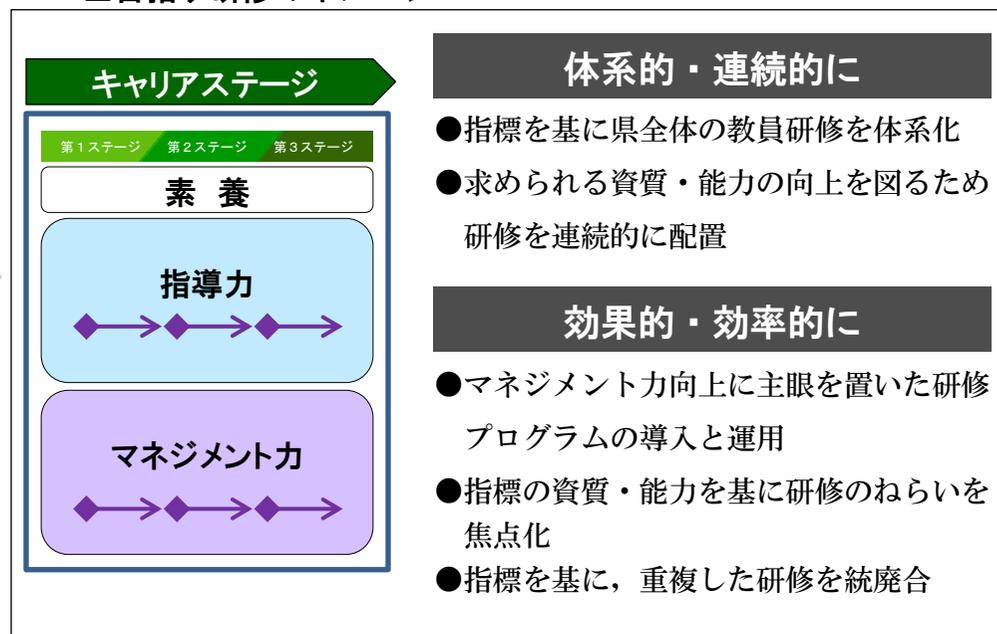
県総合教育センター・県教育委員会各課室・教育事務所等で構成する「愛知県教員研修計画策定会議（仮称）」において、愛知県教員育成指標を踏まえ、本県の教員研修の全体計画を策定。この全体計画に基づいて、県総合教育センター・県教育委員会各課室等が研修を実施。

(3) 指標を踏まえた研修計画策定の視点

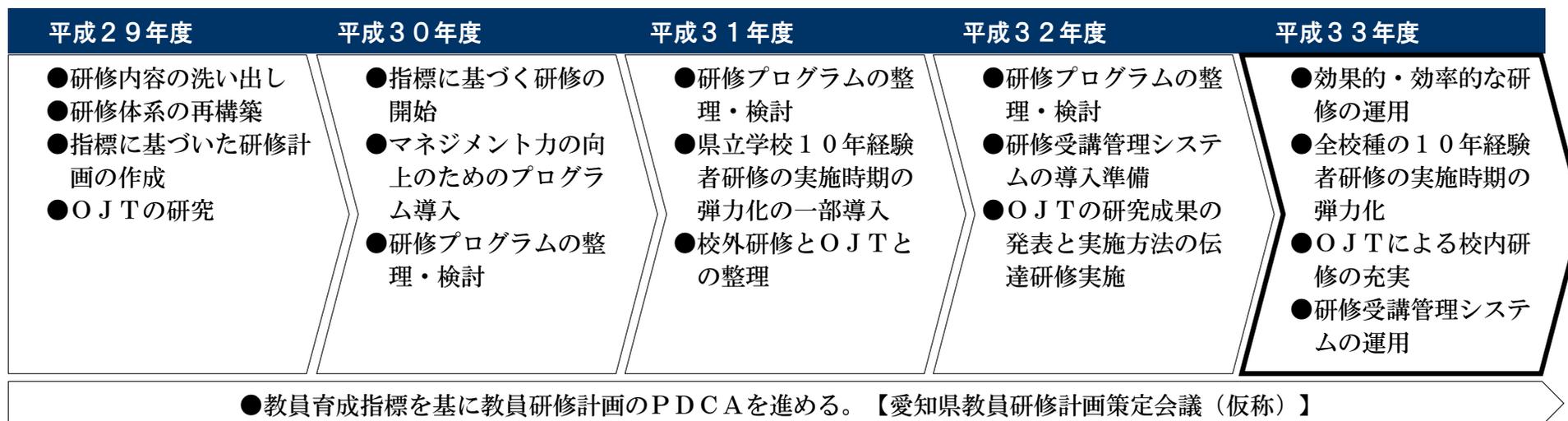
■ 現行の研修のイメージ



■ 目指す研修のイメージ



3 今後のスケジュール



Ⅱ 平成30年度愛知県教員研修について

1 研修の基本方針

現在の学校教育には、子どもたちに新しい時代で必要となる資質・能力を育むことが求められている。このような教育を実現するためには、教員一人一人が学校教育の直接の担い手であるという意識を強くもち、自律的かつ主体的な研修に努め、教員としての資質・能力をいっそう高めるとともに、学校において研修の成果を同僚と互いに共有するなどして、学校組織全体としての指導力向上を図ることが重要である。

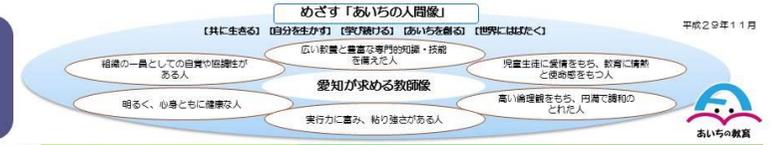
愛知県教育委員会では、平成29年11月に「愛知県教員育成指標」を策定し、キャリアステージに応じ、教員一人一人が発揮したい資質・能力を明確にした。

これらを踏まえ、県総合教育センターの研修事業を中核とし、県教育委員会各課室、各教育事務所等が連携を図りながら、初任者から中堅教員、ベテラン教員、管理職まで、教員のキャリアステージに応じた体系的かつ効果的な研修を実施する。

【研修事業に関する重点】

- ① 教員としての素養や指導力、マネジメント力など、資質・能力の向上に資する
- ② 学校が直面している教育課題の解決に資する
- ③ 教育改革の推進に対応する

愛知県 教員育成指標 【教諭】



資質・能力	ステージ	第1ステージ 教員としての 基盤を固める	第2ステージ ミドルリーダーとして 推進力を発揮する	第3ステージ シニアリーダーとして 牽引力を発揮する
児童生徒理解	教育的愛情・使命感・責任感	○児童生徒の伸びようとする姿を捉え、愛情をもって寄り添い、支え続け、児童生徒の成長に喜びを感じる。 ○児童生徒の未来を真剣に考えと、将来を担う児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。	○児童生徒の伸びようとする姿を捉え、愛情をもって寄り添い、支え続け、児童生徒の成長に喜びを感じる。 ○児童生徒の未来を真剣に考えと、将来を担う児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。	○児童生徒の伸びようとする姿を捉え、愛情をもって寄り添い、支え続け、児童生徒の成長に喜びを感じる。 ○児童生徒の未来を真剣に考えと、将来を担う児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。
	倫理観・人間性・行動力	○高い倫理観をもち、法令を遵守し、児童生徒の手本となるような立ち振る舞いを心がけ、児童生徒との信頼関係を築こうとする。 ○児童生徒の目標・憧れとなるような魅力的な人間像を追求する。 ○自ら行動し、粘り強く、職務に取り組もうとする。	○高い倫理観をもち、法令を遵守し、児童生徒の手本となるような立ち振る舞いを心がけ、児童生徒との信頼関係を築こうとする。 ○児童生徒の目標・憧れとなるような魅力的な人間像を追求する。 ○自ら行動し、粘り強く、職務に取り組もうとする。	○高い倫理観をもち、法令を遵守し、児童生徒の手本となるような立ち振る舞いを心がけ、児童生徒との信頼関係を築こうとする。 ○児童生徒の目標・憧れとなるような魅力的な人間像を追求する。 ○自ら行動し、粘り強く、職務に取り組もうとする。
	自己教育力・創造的思考力	○幅広い教養と高い専門性を備えつつ、常に自分の姿を振り返り、向上心を忘れることなく自ら学び続ける意欲をもっている。 ○新たな問題に直面しても、柔軟に対応するとともに、常に創意工夫しながら物事に粘り込んでいくこととする。	○幅広い教養と高い専門性を備えつつ、常に自分の姿を振り返り、向上心を忘れることなく自ら学び続ける意欲をもっている。 ○新たな問題に直面しても、柔軟に対応するとともに、常に創意工夫しながら物事に粘り込んでいくこととする。	○幅広い教養と高い専門性を備えつつ、常に自分の姿を振り返り、向上心を忘れることなく自ら学び続ける意欲をもっている。 ○新たな問題に直面しても、柔軟に対応するとともに、常に創意工夫しながら物事に粘り込んでいくこととする。
	コミュニケーション力	○自分の考えを伝えるとともに、周囲の状況や相手の思いを汲み取り、共感理解を図りながら、協働的に行動する。	○自分の考えを伝えるとともに、周囲の状況や相手の思いを汲み取り、共感理解を図りながら、協働的に行動する。	○自分の考えを伝えるとともに、周囲の状況や相手の思いを汲み取り、共感理解を図りながら、協働的に行動する。
学習指導	児童生徒理解	○子どもの発達段階や成長の過程などの個別的な理解をもち、心情を捉え、児童生徒一人一人に愛情をもって接し、児童生徒の成長に喜びを感じる。 ○学習・学校への理解を深め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○児童生徒の目標・憧れとなるような魅力的な人間像を追求する。 ○自ら行動し、粘り強く、職務に取り組もうとする。	○子どもの発達段階や成長の過程などの個別的な理解をもち、心情を捉え、児童生徒一人一人に愛情をもって接し、児童生徒の成長に喜びを感じる。 ○学習・学校への理解を深め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○児童生徒の目標・憧れとなるような魅力的な人間像を追求する。 ○自ら行動し、粘り強く、職務に取り組もうとする。	○子どもの発達段階や成長の過程などの個別的な理解をもち、心情を捉え、児童生徒一人一人に愛情をもって接し、児童生徒の成長に喜びを感じる。 ○学習・学校への理解を深め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○児童生徒の目標・憧れとなるような魅力的な人間像を追求する。 ○自ら行動し、粘り強く、職務に取り組もうとする。
	学習指導	○学習指導の重要性を理解し、授業の準備・進捗の確保などの基礎的な指導技術を身に付け、指導計画に即ち、実践しようとする。	○学習指導の重要性を理解し、授業の準備・進捗の確保などの基礎的な指導技術を身に付け、指導計画に即ち、実践しようとする。	○学習指導の重要性を理解し、授業の準備・進捗の確保などの基礎的な指導技術を身に付け、指導計画に即ち、実践しようとする。
	生徒指導	○生徒指導及びキャリア教育の意味を理解するとともに、個や集団を指導するための方法を理解し、実践しようとする。	○生徒指導及びキャリア教育の意味を理解するとともに、個や集団を指導するための方法を理解し、実践しようとする。	○生徒指導及びキャリア教育の意味を理解するとともに、個や集団を指導するための方法を理解し、実践しようとする。
	多様性への理解と教育支援	○人権感覚をもち、児童生徒の個性を尊重し、個に応じた指導・支援をする必要とする児童生徒に対する教育の基礎的な知識を身に付けていく。	○人権感覚をもち、児童生徒の個性を尊重し、個に応じた指導・支援をする必要とする児童生徒に対する教育の基礎的な知識を身に付けていく。	○人権感覚をもち、児童生徒の個性を尊重し、個に応じた指導・支援をする必要とする児童生徒に対する教育の基礎的な知識を身に付けていく。
学級経営・学年経営・学校運営	学級経営・学年経営・学校運営	○理想とする児童生徒の姿や自分自身の姿をもち、その実現に向けて、実践しようとする。 ○学校教育の意義や教育に関する今日的課題などの教育に関わる情報を積極的に得ようとする。	○理想とする児童生徒の姿や自分自身の姿をもち、その実現に向けて、実践しようとする。 ○学校教育の意義や教育に関する今日的課題などの教育に関わる情報を積極的に得ようとする。	○理想とする児童生徒の姿や自分自身の姿をもち、その実現に向けて、実践しようとする。 ○学校教育の意義や教育に関する今日的課題などの教育に関わる情報を積極的に得ようとする。
	学級経営・学年経営・学校運営	○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。	○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。	○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。
	学級経営・学年経営・学校運営	○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。	○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。	○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。
	学級経営・学年経営・学校運営	○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。	○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。	○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。 ○学級・学年の目標を定め、児童生徒の成長を願い使命感や責任感を自覚する。
学校安全・危機管理	学校安全・危機管理	○学校安全についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒の回りの危険を察知し、回避したり、適切に対応したりしようとする。	○学校安全についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒の回りの危険を察知し、回避したり、適切に対応したりしようとする。	○学校安全についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒の回りの危険を察知し、回避したり、適切に対応したりしようとする。
	学校安全・危機管理	○学校安全についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒の回りの危険を察知し、回避したり、適切に対応したりしようとする。	○学校安全についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒の回りの危険を察知し、回避したり、適切に対応したりしようとする。	○学校安全についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒の回りの危険を察知し、回避したり、適切に対応したりしようとする。
	学校安全・危機管理	○学校安全についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒の回りの危険を察知し、回避したり、適切に対応したりしようとする。	○学校安全についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒の回りの危険を察知し、回避したり、適切に対応したりしようとする。	○学校安全についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒の回りの危険を察知し、回避したり、適切に対応したりしようとする。
	学校安全・危機管理	○学校安全についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒の回りの危険を察知し、回避したり、適切に対応したりしようとする。	○学校安全についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒の回りの危険を察知し、回避したり、適切に対応したりしようとする。	○学校安全についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒の回りの危険を察知し、回避したり、適切に対応したりしようとする。
同僚との連携・協働	同僚との連携・協働	○組織の一員として、求められている役割を理解し、同僚と協働的に仕事を遂行しようとする。 ○他の教職員と積極的に関わり、疑問点や悩みを相談したり、共有したりしながら、自己改善をすすめる。	○組織の一員として、求められている役割を理解し、同僚と協働的に仕事を遂行しようとする。 ○他の教職員と積極的に関わり、疑問点や悩みを相談したり、共有したりしながら、自己改善をすすめる。	○組織の一員として、求められている役割を理解し、同僚と協働的に仕事を遂行しようとする。 ○他の教職員と積極的に関わり、疑問点や悩みを相談したり、共有したりしながら、自己改善をすすめる。
	同僚との連携・協働	○組織の一員として、求められている役割を理解し、同僚と協働的に仕事を遂行しようとする。 ○他の教職員と積極的に関わり、疑問点や悩みを相談したり、共有したりしながら、自己改善をすすめる。	○組織の一員として、求められている役割を理解し、同僚と協働的に仕事を遂行しようとする。 ○他の教職員と積極的に関わり、疑問点や悩みを相談したり、共有したりしながら、自己改善をすすめる。	○組織の一員として、求められている役割を理解し、同僚と協働的に仕事を遂行しようとする。 ○他の教職員と積極的に関わり、疑問点や悩みを相談したり、共有したりしながら、自己改善をすすめる。
	同僚との連携・協働	○組織の一員として、求められている役割を理解し、同僚と協働的に仕事を遂行しようとする。 ○他の教職員と積極的に関わり、疑問点や悩みを相談したり、共有したりしながら、自己改善をすすめる。	○組織の一員として、求められている役割を理解し、同僚と協働的に仕事を遂行しようとする。 ○他の教職員と積極的に関わり、疑問点や悩みを相談したり、共有したりしながら、自己改善をすすめる。	○組織の一員として、求められている役割を理解し、同僚と協働的に仕事を遂行しようとする。 ○他の教職員と積極的に関わり、疑問点や悩みを相談したり、共有したりしながら、自己改善をすすめる。
	同僚との連携・協働	○組織の一員として、求められている役割を理解し、同僚と協働的に仕事を遂行しようとする。 ○他の教職員と積極的に関わり、疑問点や悩みを相談したり、共有したりしながら、自己改善をすすめる。	○組織の一員として、求められている役割を理解し、同僚と協働的に仕事を遂行しようとする。 ○他の教職員と積極的に関わり、疑問点や悩みを相談したり、共有したりしながら、自己改善をすすめる。	○組織の一員として、求められている役割を理解し、同僚と協働的に仕事を遂行しようとする。 ○他の教職員と積極的に関わり、疑問点や悩みを相談したり、共有したりしながら、自己改善をすすめる。
地域社会との連携・折衝	地域社会との連携・折衝	○家庭との情報共有に努めるなど、家庭との連携を図り、良好な関係を築く。 ○地域、関係機関と必要に応じて連携したり、他の教職員の助言を受けたりしながら、適切に対応する。	○家庭との情報共有に努めるなど、家庭との連携を図り、良好な関係を築く。 ○地域、関係機関と必要に応じて連携したり、他の教職員の助言を受けたりしながら、適切に対応する。	○家庭との情報共有に努めるなど、家庭との連携を図り、良好な関係を築く。 ○地域、関係機関と必要に応じて連携したり、他の教職員の助言を受けたりしながら、適切に対応する。
	地域社会との連携・折衝	○家庭との情報共有に努めるなど、家庭との連携を図り、良好な関係を築く。 ○地域、関係機関と必要に応じて連携したり、他の教職員の助言を受けたりしながら、適切に対応する。	○家庭との情報共有に努めるなど、家庭との連携を図り、良好な関係を築く。 ○地域、関係機関と必要に応じて連携したり、他の教職員の助言を受けたりしながら、適切に対応する。	○家庭との情報共有に努めるなど、家庭との連携を図り、良好な関係を築く。 ○地域、関係機関と必要に応じて連携したり、他の教職員の助言を受けたりしながら、適切に対応する。
	地域社会との連携・折衝	○家庭との情報共有に努めるなど、家庭との連携を図り、良好な関係を築く。 ○地域、関係機関と必要に応じて連携したり、他の教職員の助言を受けたりしながら、適切に対応する。	○家庭との情報共有に努めるなど、家庭との連携を図り、良好な関係を築く。 ○地域、関係機関と必要に応じて連携したり、他の教職員の助言を受けたりしながら、適切に対応する。	○家庭との情報共有に努めるなど、家庭との連携を図り、良好な関係を築く。 ○地域、関係機関と必要に応じて連携したり、他の教職員の助言を受けたりしながら、適切に対応する。
	地域社会との連携・折衝	○家庭との情報共有に努めるなど、家庭との連携を図り、良好な関係を築く。 ○地域、関係機関と必要に応じて連携したり、他の教職員の助言を受けたりしながら、適切に対応する。	○家庭との情報共有に努めるなど、家庭との連携を図り、良好な関係を築く。 ○地域、関係機関と必要に応じて連携したり、他の教職員の助言を受けたりしながら、適切に対応する。	○家庭との情報共有に努めるなど、家庭との連携を図り、良好な関係を築く。 ○地域、関係機関と必要に応じて連携したり、他の教職員の助言を受けたりしながら、適切に対応する。

※特別支援学校においては必須項目を含む。

2 研修の種類とキャリアパス

教員研修は、大きく「校外研修」と「校内研修」に分けられる。研修を通じて教員一人一人の資質・能力の向上を目指すのはもちろんのこと、両研修が相互にその役割を果たすことで、「学校組織の活性化」につながる。豊かな教育実践のある学校や専門的な知見をもつ大学からの講師による校外研修を受講し、受講者が研修リーダーとして校内等で伝達することで、校内研修が充実し、新たな教育実践へとつながっていく。

「基本研修」は、第1ステージの初任者から第2ステージの中堅教員まで、教職経験に応じて受講を義務付けた研修であり、教員としての基

本的な資質・能力の向上を図るものである。

第2ステージ以降では、「職務研修」「課題研修」「専門研修」「長期研修」が位置付けられている。職責遂行に必要な能力や専門性を高めるなど、キャリアに応じて必要となる資質・能力の向上を図る研修である。

教員一人一人がキャリアパスに応じて必要な研修を受講していくことで、各分野でのスペシャリストとして学校を牽引するシニアリーダーへと資質・能力を向上させていく。

